

AO 推薦入試

推薦入試といっても AO 公募推薦、指定校推薦などの種類があり、大学や学科により求められる能力もかなり異なるため、自分が受験する大学が要求していることを正確に把握し、それに合わせた実力をつけることが大切です。

ほとんどの大学で、志願理由書、AO の場合は自己推薦書も提出することになります。小論文はあらかじめ提出を求められる場合もありますが、ほとんどの場合、入試当日に小論文と面接の試験があります。小論文にもテーマのみ、課題文付き、資料あり、などの種類があります。

「何とかなるのではないか。」と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、大学側を納得させるような志願理由書や自己推薦書を書いたり、限られた時間や字数内で論理的に小論文を書くことは難しいものです。あらかじめどのような問題にも対応できるよう練習が必要です。

このような入試に対応するには、まず受験校のこと、特に希望する学科や研究室の内容、教官の専門について調べて情報を集めましょう。

自分が学びたいと思う専門についての基礎の本を読んだり、新聞、テレビ、インターネット等で調べて知識を得ることも大切です。

しかしながら、大学のパンフレットや集めた情報から言葉を抜き出して志願理由書を書いても、大学を納得させ、印象に残るものは書けません。

そこで当予備校では、生徒さん1人、1人の受験に合わせ、志願理由書、自己推薦書の作成、小論文の書き方指導から添削、面接の指導までを行います。推薦の形態や受験大学に

より求められるものが異なり、生徒さん1人、1人の特色も異なるため、すべてオーダーメイドでカリキュラムを組みます。そして何度でも生徒さんが納得いくまで、内容を話し合い、添削を重ねます。

例えば、筑波大学理工学群の公募推薦を受験したA君の場合、受験を決めたのが9月に入ってからと遅く、書類の提出が10月、入試が11月といった日程で、あまり時間がありませんでした。志願理由、小論、面接、学科試験が課されました。A君は全く小論文を書いた事がなかったため、グラフの読み方からそのまとめ方、その結果に対する考察の仕方、書き方までをまず指導しました。何回も添削を重ね、A君が自信を持って書けるようになるま

で練習しました。面接についても大学の研究室について志望理由、将来設計なども含め、なぜ筑波大ではなくてはならないのか具体的にはっきり伝わるように考え、練習をしました。そしてA君はみごと合格を勝ち取りました。面接では、彼の将来設計を聞いた面接官は、「なるほど。しっかり考えているね。」と言ったそうです。

このように当校では、1人、1人に合わせ、大学の求めるものを分析し、生徒さんが合格するために必要なことを把握し、合格につなげていきます。

